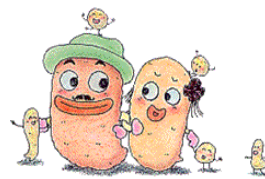


湯戸飛夜いけいけだよ!



Jinen Joe family

記事:

- ・戸田駅前活性化部会の活動について
- ・戸田駅前広場の整備要望について
- ・戸田駅前ビアガーデンを開店
- ・ゆの浴衣まつりに好評の「イカ焼き」を出店
- ・連載小説『涙に咲いた紫の菖蒲』その2
- ・パワースポット「丸山公園八十八箇所めぐり」
- ・「てくてくウォーク」参加者募集
- ・今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

連絡先:

(0834)63-3770

(神本)まで

発行 西徳山まちづくりの会

戸田駅前活性化部会の活動について

西徳山まちづくりの会の活動方針のひとつに“戸田駅を中心とした活動をする”というのがあります。

湯野・戸田・夜市3地区の玄関である戸田駅を“花の駅”にしたいというのが私たちの想いです。

毎月2回(第2・4土曜日)に駅周辺の草刈り、花壇の草引き、花植えなどを行っています。

夏には水やり当番を決め、毎日汗を流します。

年2回春と秋には“種から育てる苗づくり”を実施しています。ピンセットやつまようじを使って極小の種をまき、1ヶ月後にポットに植え替えるまで、水や光の調整をしつつ肥料を施しながら、さらに1ヶ月後の定植まで管理しています。

また、育苗団体からいただいた苗も育てています。

刈り取った草は鶏ふんや水を混ぜて発酵させ堆肥づくりも行っています。



一年を通じて季節の花が咲き、行き交う方々が“ホッ!とする駅”であってほしいと思っています。そして作業中に「きれいになりますね、ご苦労様。」と声をかけていただく時、うれしさと安らぎを感じています。

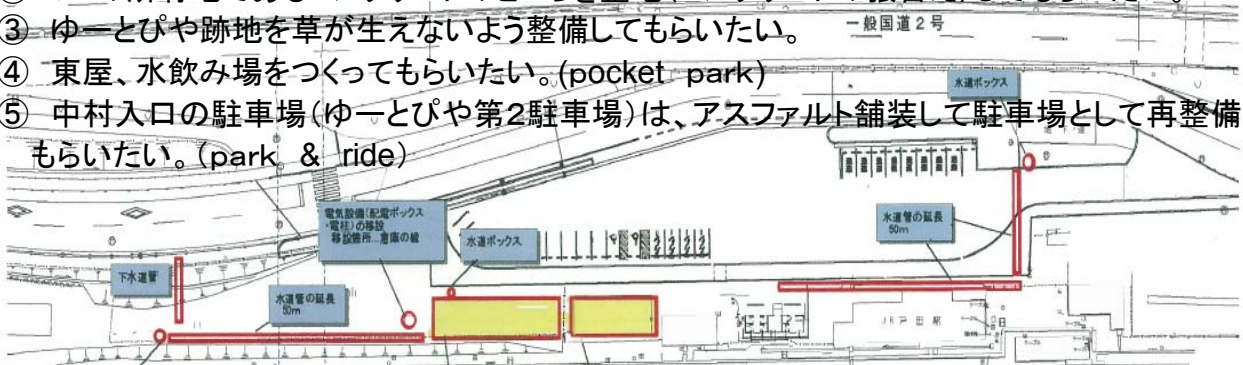
“めざそう花の駅 つくろう交流の輪”この想いに向かって地道に活動を続けています。(渡ちゃん記)



戸田駅前広場の整備要望について

平成 27 年 9 月 16 日(水)、周南市役所政策企画課と戸田駅前広場の活用について意見交換をしました。まちづくりの会では、西徳山地区の活性化施設の建設を要望してきていましたが、道の駅「ソレーネ周南」ができ、新たな建物は当面不要と考えております。そこで、管理しやすい駅前広場を基本にパークアンドライドやミニ公園としての整備を提案しました。

- ① 花に水やりが簡単にできるよう水道の設置をしてもらいたい。
(東は信号機のところまで、西は出入り口まで)
- ② JRの所有地であるコンクリートのところを整地(コンクリートの張替え)してもらいたい。
- ③ ゆーとぴや跡地を草が生えないよう整備してもらいたい。
- ④ 東屋、水飲み場をつくってもらいたい。(pocket park)
- ⑤ 中村入口の駐車場(ゆーとぴや第2駐車場)は、アスファルト舗装して駐車場として再整備してもらいたい。(park & ride)



戸田駅前ビアガーデンを開店

平成27年7月25日午後4時から戸田駅前広場で、“戸田駅前1日だけビアガーデン”を開店しました。入店料2千円で飲み放題食べ放題です。お客さんは17人で、まちづくりの会会員だけでなく、地域の人々の来店もありました。皆さんで美味しい海鮮バーベキューを食べながら、生ビールやジュースを片手にまちづくりの話に花を咲かせました。楽しい時を過ごし、18時に閉店しました。またの来店をお待ちしています。

(店主敬白)



ゆの浴衣まつりに好評の「イカ焼き」を出店

平成27年8月23日(日)、湯野温泉広場周辺で実施された「第4回ゆの浴衣まつり」の会場で、「イカ焼き」を出店しました。



今年5月に実施された「ソレーネ周南1周年祭」で初めてイカ焼きを出店し、美味しいと大好評でしたので、その声に押されての出店です。夏の暑さと木炭で焼き上げる熱さに我慢比べでしたが、準備していたイカが次々と売れていき、お客さんも喜ばれ、会員も楽しく過ごせるという、充実した夏の思い出となりました。

また、今回は多くを学ぶ機会でもありました。体長20センチ程度のイカが串に刺さった「イカ焼き」ですが、食べ易いように一口サイズに切り分けて欲しいとの声を多く受け、次回以降に行う際の貴重なご意見となりました。

まず鉄板で全体を温め、木炭と網で丁寧に焼き上げたイカ焼きです。西徳山地域のイベントで出店している際は、ぜひご賞味ください。味は保証付です。
(村ちゃん記)

連載小説

『涙に咲いた紫の菖蒲』 その2



文 城山 耕作

山陽道から北へ向けて、柳川沿いにしばらく歩くと、盆地が開けているのが見えてくる。その村は穏やかな佇まいで、村人は静かにそして細々と農業にいそしんでいるように見えるが、この村でも地頭による税の取り立ては厳しく、特に源平の戦が始まってからというもの、農民に更なる重税が課せられた。

そのうえ壇ノ浦の戦の4年前には後白河上皇が、焼き払われた東大寺の再建を唱え、61歳の俊乗坊重源がその勸進職と再建の責任者に任命された。勸進職とは日本中から寄付を集める人のことで、政治の実権を握っている上皇から任命されたということは、大変な名誉であり、しかも絶大な権限を持っていた。寄付といってもほとんど税のようなもので、地方は疲弊の極みにあった。

源平合戦の終焉とともに大仏の頭部が完成し、これからその巨大な伽藍に取り掛かろうとしていた。その後、その木材の調達先はこの湯野の里からほど遠くない徳地の郷が選ばれ、このあたりの住民はその使役で大変な苦勞をすることになる。

一見平和そうに見えるこの村も、実は何重にも課せられる税にあえいでいたのである。

この村の長の篤蔵は、住民をよくまとめ、みんなで助け合いながら、この村に派遣された徴税の役人とも話し合っ、なんとか課せられる税を納め、村人からの信頼は厚かった。

その篤蔵と妻ゆうとの間には、しづという一人娘がいた。しづは17歳、野に咲くあの純白な百合の花のように清楚で、ひなにはまれな美人であった。里の人たちは次のように噂しあった。

「篤蔵さ一のところのしづは、きれいな娘になった。まるで天から降りてきたみたいじゃ。この村に置いておくのはもったいない。都の殿上人もかなわんじゃろう。」

「いったい誰の嫁になるんじゃろう。きれいなだけじゃない。気立てがようて親の言うこともよおき。しかも暇さえあれば野良へ出て仕事もする。天は二物を与えずとは嘘じゃ。しづには天は二物も三物も与えたもうた。」

村の若者たちの間でも、しづはたいそうな人気であったが、あのような美しい娘は高嶺の花で、どう考えても嫁になど来てもらえないだろうと、言い寄る男もいないほどであった。

ある日のこと、しづは父親の篤蔵の使いで、隣村の徴税の役所に書類を届けに行った。役人たちの間でも、しづの評判はすこぶる良く、相好を崩してしづの相手をしてくれた。

「よお来たのお、しづ。父親の使いできたのじゃな。篤蔵が来るより、お前のほうがよほど気が利いているというものじゃ。」

「まあ、お役人様。私には何もわかりません。父の言いつけに従っただけです。」

「篤蔵の書類はきちんと整理されていて、信頼できる。使いはしづがいいに決まっておる。さあ、これは都で評判の珍しい菓子じゃ。父への土産に持って帰るがいい。」

「ありがとうございます。お役人様。いつも珍しいお菓子をいただき恐縮いたします。遠慮なく頂戴します。」

この時期は、平家が滅亡したとはいえ、まだ地頭の役人は朝廷の貴族の息がかかり、幾重もの税の取り立ても、住民との話し合いで行われていたのである。特にこの地区は正直な住民が多く、しづの使いの効果もあったと考えられる。

徴税の役人のところを辞して、柳川伝いにしづは住む里に戻っていく。春は盛りを迎え、川沿いには色とりどりの花が咲いていた。桜の花も散り始め、葉桜になりつつあるような季節であった。

しづが帰り道を急いでいると、路傍に若い男が倒れている。よく見ると年の頃はしづと同じくらい。腰には風体に不釣り合いの錦の袋に入った笛を携えている。

息絶えだえの山本泰盛であった。

つづく



西徳山まちづくりの会

編集後記

湯野の山下恒夫さんから菖蒲が池の伝説について書かれているものを頂きました。その伝説を伝えたくて連載「涙に咲いた紫の菖蒲」を書き始めました。いつの時代の頃か見当が立たず、主人公は「四郎谷へ落ち延びた平家の武将、四郎の一党である」との一文を手掛かりに時代を壇ノ浦の合戦の後としました。

時代背景をたどりながら調べていくと、俊乗坊重源のことに触れなくてはならなくなりました。重源は61歳にして戦火に焼けた東大寺の再建を期す朝廷の勳進職に任命され、木材を求めて徳地の郷へやって来て、みごとに大仏とその伽藍を再建した人です。そして85歳でその生涯を終えました。その木材の切り出しには多くの人手が必要であり、このあたりからもたくさんの人たちが役務に駆り出されたのでしょう。

このように、一つの伝説からその土地の時代の流れが広がってくるような気がします。

山下さんには、夏目漱石の小説「坊ちゃん」のモデルが湯野出身の弘中又一であることや、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公の楯取素彦・美和子夫妻にまつわるものが山田家に存在することなどたくさん歴史を教えてくださいました。また、西徳山まちづくりの会主催のてくてくウォークでもお世話になっています。

歴史探索はまちづくりの一つでもあります。(耕笹)

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

パワースポット

「丸山公園八十八箇所めぐり」



丸山は菅原の入口を左に、戸田地区コミュニティの人々による公園化の時に植えられたアジサイの木々が迎えてくれます。

急な坂道を登って行くと視界が開け、一番のお地藏様の祠が見えてきます。菅原薬師堂に900年前から仏像があるということは、菅原地区の人々の信仰心がいかに篤かったかがわかります。

明治10年、戸田に八十八ヶ所のお大師様があったのを戸田地区の有志一同が集め、大正6年に丸山の頂上を開き公園化してお大師様をお祭りし、毎年春、お接待をして公開していました。



一番札所



大師堂

頂上には新しくなった本堂、接待所があり、広場には大きい碑があり、これは大正11年4月建立とあり碑文は「人弘法碑」とあります。まだまだ新しい発見のある丸山はとても魅力的です。今でも、3月春分の日豆ごはんの接待があります。お世話して下さるのは菅原、東阿高地区の12名の方々です。

皆さんも丸山を大切に守ってこられた人々の暖かい心に触れてみては如何ですか？

「てくてくウォーク」参加者募集

夜市、戸田ふるさとウォーク「歴史散歩」

期 日 平成27年10月25日(日) 9:00~15:00
参加費 500円(保険、弁当代)
申込締切 平成27年10月17日(土)

爽やかな秋の1日私たちの住む夜市、戸田地区をウォーキングしませんか？
そんな歴史があったの！

この辺りで一番早く人が棲みついた所って？

ここは昔は海だった？ などなど……

住んでいても知らないことだらけ。

伝説・伝承、盛り沢山の夜市、戸田をボランティアガイドさんと一巡りして見ませんか？

参加ご希望の方は、0834-83-2762(國澤)までご連絡ください。お待ちしております。



【今後の行事予定】

○西徳山まちづくりの会の全体会

原則として毎月第1水曜日の19:30から、夜市公民館で開催します。興味のある方は遠慮なくご参加ください。

○戸田駅前広場の掃除と花壇の手入れ

毎月第2、第4土曜日午後5時から行っています。一緒に作業しませんか。皆さんの参加をお待ちしております。

○戸田駅前広場での【クリスマス会】を企画中です。

企画が決まりましたら、ポスター等でお知らせします。